

漫画家・作家たちの絵手紙

私の八月十五日展

昭和二十年八月十五日。

第二次世界大戦は日本の敗戦で終了した。

もう半世紀以上も前のことになるが、この戦いで、東京をはじめとするいくつかの主要都市が焦土と化し、数えきれない人命が犠牲となった。

望む望まないにかかわらず、戦争に駆り出された人々も、海や空で、進駐先の他国で、その多くが尊い命を失った。

国の内外を問わず、かろうじて生き残った人々も心身の疲労はなほだしく、肉親も住みかも失い焦土をさ迷う人々に救済の手は届くべくもなかった。戦争末期の日本は、まさに地獄絵図そのものであった。

当時、中国や朝鮮にはたくさんの日本人が住んでいたのだが、日本敗戦となるや、その人々は一夜にして他国の侵略者として追われる立場となり、その過酷な逃避行の途中、異国の荒野で命を落とした犠牲者の数は二十万人以上とも言われている。

その結果置き去りになった子供達は残留孤児となり、その多くは長期間にわたって辛酸を舐める苦労を強いられることとなってしまった。

八月十五日に始まった、外地居住日本人のあまりにも酷い運命は、私がおの一人であったことを抜きにしても涙を禁じ得ない。

取り返しのつかないさまざまな犠牲を払いながら、日本はやっと平和を取り戻したが、以後、日本の復興と成長はいちじるしく、現在では、あの頃の出来事がまるで嘘のように思えるほど、豊かな暮らしを享受する毎日である。

年を経て、あの戦争を知る世代はもう老齢となり、戦争を知らない人達が人口の七割をしめる昨今である。

何しろ終戦当時六歳だった私が、今や還暦を十も越える爺さんになってしまったのだから、終戦記念日といっても、なんのことだか皆目判らないという人達が増えるのも致し方ないことなのだろう。

今日では、第二次世界大戦はすっかり過去の事となり、忌まわしいその記憶も歴史のページの中に埋もれかけている。

日本以外でも戦争で苦しんだ国は多々有って、戦争の残酷さ恐ろしさは充分学んだはずなのに、現在でも相変わらず地球のそこそこで戦争が勃発し、人命が失われ、たくさんの涙が流され続けているのは情けない。

漫画家仲間には私をも含めて、満州からの引揚者が多い。皆それぞれに混乱の中を逃げ惑い生き延びた。

もしかしたら残留孤児だったかも知れないという話もよく聞く。

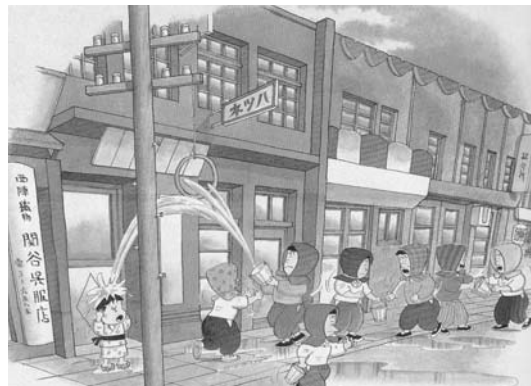
この本は、その時代を生き、戦争を肌で感じた我々仲間達の、昭和二十年八月十五日の記録である。

戦う日本が平和な日本に生まれ変わったその日、その時、それぞれが何処に居て何を考え、何をしていたか。

戦禍をくぐって今日まで生き延びた人々のそれぞれのドラマティックな一日を描いた作品は、その一つ一つが平和な世界への道標のような気がする。

我々の趣旨に賛同し、それぞれ、絵や文章を寄せて下さった戦後生まれの方々の作品も加えて、重みのある内容となったこの「私の八月十五日展」。

一人でも多くの方に見て頂き、戦争について平和について、あらためて考えて頂ければ幸いですと思う。



「バケツリレーで防火訓練」◎北見けんいち



「もうすぐ帰れるよ」作：町田典子/絵：◎森田拳次



「助かった」◎水木プロ

二〇〇九年 七月 森田拳次

【関連イベント】

□オープンセレモニー（テープカット）

- ・日時 平成21年7月22日（水） 8:50～
- ・場所 千葉県立東部図書館 1階玄関

□「私の八月十五日展」開催記念特別講演会

- ・日時 平成21年8月9日（日） 13:00開場 14:00開演
- ・場所 千葉県東総文化会館 大ホール
- ・講師 「八月十五日の会」代表 森田拳次氏 ちばてつや氏

入場無料 定員900名

【連絡先】

旭市役所 企画課 TEL.0479-62-1212（代）
〒289-2595 千葉県旭市二の1920番地



千葉県立東部図書館：〒289-2521 千葉県旭市ハの349 TEL.0479-62-7070

千葉県東総文化会館：〒289-2521 千葉県旭市ハの666 TEL.0479-64-2001

【交通】

- 徒歩でお越しの方：JR旭駅より徒歩約15分
- お車でお越しの方：銚子連絡道横芝光ICから国道126号線を銚子方面へ約17km、袋西交差点を右折、東総文化会館北交差点を直進、東部図書館入口を右折